

一般・消化器外科

1. スタッフ（2023年現在）

科長（教授）	力山 敏樹
医員（教授）	鈴木 浩一
（がん診療運営部外来化学療法室長）	
	野田 弘志
	池田 太郎
	（周産期科）
医局長（助教）	武藤 雄太
病棟医長・病院助教	遠藤 裕平
医員（准教授）	宮倉 安幸
（講師）	齊藤 正昭
	渡部 文昭
（助教）	蓬原 一茂
	井上 亨悦
	柿澤 奈緒
	市田 晃佑
	高山 裕司
病院助教	福井 太郎
	阿部 郁
シニアレジデント	9名
大学院生	3名

2. 診療科の特徴

一般・消化器外科では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓、脾臓、ヘルニア、乳腺、甲状腺などの悪性疾患、良性疾患、腹部救急疾患に対する多岐にわたる外科治療を行っている。2014年に開設した小児外科は成長を続け、2023年には小児外科手術件数が164例、新生児手術が8例となった。低侵襲治療を目指した鏡視下手術も積極的に導入しており、3D腹腔鏡手術システムやロボット支

援下手術による症例数も増加傾向にある。

2023年にはロボット支援下での手術が31件行われた。

当科における手術症例数は、2008年に初めて1,000件を超えて以来、15年以上連続して1,000件を上回り、2023年の総手術件数は1,069件、うち緊急手術は101件であった。外来化学療法はのべ2,720人に対して行われ、これは診療科ごととして院内で最も多い数であった。がん遺伝子パネル検査を中心としたがんゲノム医療にも力を入れており、それぞれの患者ごと、腫瘍ごとの遺伝子変異や臨床的特徴に沿った薬物療法の提供を目指している。また、当科は多施設共同研究にも積極的に参加し、治療成績を学術報告する機会も増加している。

若手医師の教育と養成にも力を入れており、2023年には新たに2人のシニアレジデントが入局した。年間複数回のドライラボやウェットラボのトレーニングプログラムを実施し、若手医師の技術向上を図っている。現在大学院生は3人であり、研究体制を充実させるとともに他の研究機関との共同研究も進めている。

さらに、当科は埼玉県内外に関連・派遣施設を複数有しており、地域医療に貢献している。研究面では、医師主導臨床試験や多施設共同研究を行い、論文発表も積極的に行っている。例えば、「合併症低減を目指した消化器外科術後腹部正中創の創閉鎖法の開発」などのテーマで臨床試験を実施し、研究成果を上げている。

3. 施設認定・専門医

日本外科学会：専門医制度修練施設
日本消化器外科学会：専門医修練施設
日本消化器病学会：専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会：専門医制度指導施設
日本消化管学会：胃腸科指導施設
日本大腸肛門病学会：大腸肛門病認定施設
日本食道学会：食道外科専門医修練施設
日本胃癌学会：認定施設 A 認定
日本肝胆膵外科学会：高度技能医修練施設 A 認定
日本肝臓学会：認定施設
日本胆道学会：指導施設
日本膵臓学会：認定施設
日本内分泌外科学会：認定施設
日本小児外科学会：教育関連施設
日本乳癌学会：認定・関連施設
日本臨床腫瘍学会：認定研修施設
日本がん治療認定医機構：認定研修施設

日本外科学会指導医：力山敏樹 他 8 名
日本外科学会専門医：力山敏樹 他 26 名
日本消化器外科学会指導医：力山敏樹 他 9 名
日本消化器外科学会専門医：力山敏樹 他 21 名
日本消化器病学会指導医：宮倉安幸 他 2 名
日本消化器病学会専門医：力山敏樹 他 8 名
日本内視鏡外科学会技術認定医：宮倉安幸 他 3 名
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医：力山敏樹、野田弘志
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医：渡部文昭、相澤栄俊
日本食道学会食道外科専門医：齊藤正昭
日本食道学会食道科認定医：齊藤正昭 他 3 名
日本消化器内視鏡学会指導医：宮倉安幸

他 2 名

日本消化器内視鏡学会専門医：宮倉安幸
他 3 名
日本大腸肛門病学会指導医：宮倉安幸
日本大腸肛門病学会専門医：宮倉安幸
日本がん治療認定医機構暫定教育医：力山敏樹
日本がん治療認定医機構認定医：鈴木浩一
他 15 名
日本胆道学会認定指導医：力山敏樹、野田弘志
日本膵臓学会認定指導医：力山敏樹、野田弘志
日本内分泌外科学会指導医：野田弘志
日本内分泌外科学会専門医：野田弘志
日本肝臓学会指導医：野田弘志
日本肝臓学会専門医：野田弘志 他 4 名
日本人類遺伝学会臨床遺伝指導医：宮倉安幸
日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医：宮倉安幸
日本家族性腫瘍学会遺伝性腫瘍指導医：宮倉安幸
日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医：宮倉安幸
日本乳癌学会認定医：蓬原一茂
検診マンモグラフィ読影認定医：齊藤正昭
他 8 名
日本消化管学会指導医：宮倉安幸、齊藤正昭
日本消化管学会専門医：宮倉安幸、齊藤正昭
日本小児外科学会指導医：池田太郎
日本小児外科学会専門医：池田太郎
日本周産期・新生児医学会認定外科医：池田太郎
日本ヘリコバクター学会：H. pylori 感染症認定医：齊藤正昭
インфекションコントロールドクター (ICD)：市田晃佑 他 2 名

4. 診療内容

・食道：逆流性食道炎、良性食道腫瘍（開

- 胸あるいは胸腔鏡下摘出)、早期食道癌(粘膜内)(内視鏡の治療:EMRおよびESD)、進行食道癌(3領域部郭清を伴う胸腔鏡下食道全摘術、血管吻合による空腸再建、化学療法、放射線療法、ステント挿入術)
- 胃・十二指腸:潰瘍(出血や穿孔、狭窄)、早期胃癌(EMR・ESD、腹腔鏡手術)、進行癌(標準-拡大郭清根治手術、腹腔鏡手術、化学療法、免疫療法)、胃粘膜下腫瘍(腹腔鏡手術、開腹手術)
- 小腸・大腸・肛門:クローン病(手術療法)、潰瘍性大腸炎(腹腔鏡補助下大腸全摘+回腸囊肛門(管)吻合)、結腸・直腸癌(粘膜切除、腹腔鏡補助下手術、ロボット支援下手術(直腸)、開腹手術、化学療法)、下部直腸癌(放射線化学療法、側方郭清、経肛門吻合)、痔核、痔瘻、直腸脱、その他の良性疾患
- 肝臓:肝細胞癌(腹腔鏡・開腹肝切除、RFA、TACE、MCT)、転移性肝腫瘍(腹腔鏡手術、開腹手術)、胆管細胞癌(切除、放射線治療)、肝門部胆管癌(手術)
- 胆嚢・胆管:胆嚢結石症(腹腔鏡手術)、胆管結石(腹腔鏡・開腹手術)、胆嚢・胆管癌(手術、放射線治療)、膵胆管合流異常(手術)
- 膵臓:慢性膵炎、仮性膵嚢胞、膵癌(膵頭十二指腸切除、体尾部切除)、膵臓腫瘍(腹腔鏡手術、ロボット支援下手術、開腹手術)、膵粘液産生腫瘍(十二指腸温存膵頭切除)、膵分節切除
- 乳腺:乳房温存手術+センチネルリンパ節生検+放射線療法、鏡視下乳腺部分切除、胸筋温存乳房切除、化学療法、ホルモン療法

- 甲状腺・副甲状腺:腺腫、癌(全摘、亜全摘)、腎不全に伴う続発性副甲状腺機能亢進症(副甲状腺全摘+自家移植)
- 副腎:褐色細胞腫を含む良性腫瘍(腹腔鏡手術)
- 鼠径部ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニア:腹腔鏡手術(TAPP)、従来法(Mesh plug法、UHS法)
- 急性虫垂炎(腹腔鏡手術)
- 絞扼性腸閉塞、消化管穿孔、ヘルニア嵌頓、腸管壊死(NOMI)などの緊急手術
- 小児外科:ヘルニア、虫垂炎、その他

5. 実績・クリニカルインディケーター

1) 当科の入院患者数:計1,535人(前年度1,603人)

2) 主な手術症例件数および年次推移

	症例数				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
食道癌	10	9	9	7	13
胃癌					
幽門側胃切除(内 腹腔鏡)	39 (15)	36 (18)	33 (15)	45 (28)	43 (18)
胃全摘(内 腹腔鏡)	14 (0)	20 (0)	14 (1)	16 (3)	23 (5)
その他	7	10	16	10	10
胃粘膜下腫瘍(内 腹腔鏡)	10 (7)	7 (6)	8 (7)	13 (10)	12 (9)
小腸腫瘍	5	6	11	8	9
虫垂炎(内 腹腔鏡)	26 (24)	25 (21)	31 (29)	26 (22)	14 (13)
結腸癌(内 腹腔鏡)	135 (104)	113 (96)	116 (104)	117 (105)	123 (105)
直腸癌(内 腹腔鏡)	74 (51)	64 (58)	75 (56)	67 (64)	49 (38)
潰瘍性大腸炎	1	4	10	11	4
クローン病	3	2	2	4	2
痔疾患	24	25	20	19	9

肝癌					
原発性	10	14	11	14	24
転移性	16	20	14	21	8
(内 腹腔鏡)	(4)	(6)	(8)	(13)	(3)
胆嚢摘出術	74	88	70	61	49
(内 腹腔鏡)	(60)	(83)	(68)	(58)	(47)
胆管癌	13	8	10	15	12
十二指腸乳頭部癌	4	3	5	3	5
膵癌	30	44	28	38	36
その他膵腫瘍	12	9	16	10	10
副腎	4	9	4	14	10
(内 腹腔鏡)	(3)	(9)	(4)	(13)	(9)
乳癌	84	85	92	96	86
甲状腺腫瘍	60	49	53	53	47
上皮小体	27	9	15	14	23
ヘルニア					
鼠径部	101	85	73	65	69
(内 腹腔鏡)	(28)	(35)	(40)	(28)	(29)
腹壁	16	21	18	11	11
(内 腹腔鏡)	(6)	(15)	(15)	(9)	(4)
小児外科					
ヘルニア	20	25	50	45	33
虫垂炎	12	14	14	15	11
その他	86	9	84	92	112

- ・乳腺甲状腺疾患検討会（不定期）
- ・乳腺疾患ケースカンファレンス（週1回：木）
- ・オンコロジーセンターカンファレンス（週2回：火・金）
- ・カンサーボード（月1回：木）
- ・医局会（月1回：水）

3) カンファレンス

2023年は、コロナ禍で縮小または中止していたカンファレンスの多くが元通りの開催形式となった。

- ・術前症例検討会（週3回：月・水・金）
（毎週金曜日：英語プレゼンテーション）
- ・術後症例報告（週2回：火・木）
- ・病棟カルテ回診（週2回：火・木）
- ・消化器内視鏡症例検討会（週1回：火）
- ・消化器合同症例検討会（不定期）
- ・肝胆膵症例検討会（週1回：月）
- ・Morbidity and Mortality conference（月1回）
- ・リサーチカンファレンス（月1回）
- ・内分泌外科カンファレンス（月1回：火）

4) 公的研究費取得実績

研究代表者	研究費	研究課題
力山敏樹 (研究責任医師)	公益法人 がん集团的治療研究財団 (JFMC48)	再発危険因子を有するハイリスク stage II 結腸癌切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法、またはXELOX療法の至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験 JFMC48-1301-C4 (ACHIEVE-2Trial)
力山敏樹	(公財) 地域社会振興財団 地域社会健康科学研究所研究費	循環腫瘍細胞 (CTC) を用いた切除不能・再発胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の治療効果予測因子の検討
鈴木浩一	文部科学省 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤 (C)	染色体不安定性を標的とした薬剤耐性の克服
宮倉安幸	文部科学省 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤 (C)	循環腫瘍細胞を標的とした血液モニタリングシステムの実用化
加藤高晴	文部科学省 科学研究費助成事業 若手研究	大腸癌患者の多臓器癌発癌における分子生物学的因子の同定
遠藤裕平	文部科学省 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援	血中循環腫瘍細胞におけるDNA脱メチル化異常と膀胱癌悪性度の研究
阿部 郁	文部科学省 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援	酸曝露が誘導する脱メチル化異常と染色体不安定性を介したBarrett食道癌のメカニズム

5) 基礎研究、臨床研究

【基礎研究】

(1) 発癌リスクとゲノム損傷

- ①癌発症の予測や早期診断、多発癌発生のメカニズムの解明
- ②薬剤感受性
- ③転移浸潤能の獲得
- ④胃食道逆流症を背景とした食道胃接合部癌の発生

(2) ゲノムプロファイルの血中モニタリング (Liquid Biopsy)

- ①循環腫瘍細胞
- ②血中循環腫瘍細胞

(3) 大学院研究

- ①大腸癌術後補助化学療法の治療効果予測に有用なバイオマーカーの検討
- ②循環腫瘍細胞の解析による血液モニタリングの実用化に関わる研究
- ③腸管上皮細胞制御および腸管粘膜傷害におけるガスダーミンの役割の解明

【臨床研究】

臓器横断的

- ①合併症低減を目指した消化器外科術後腹部正中創の創閉鎖法の開発

上部消化管外科 (食道・胃)

- ①食道癌化学放射線療法
- ②食道鏡視下手術再手術に関する全国実態調査
- ③胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下手術法：全層局所切除 - non touch method - の有用性
- ④胃カルチノイド Rindi Ⅲ型のリンパ節転移危険因子に関する多施設共同後ろ向き研究 (日本胃癌学会研究推進委員会)

- ⑤胃癌周術期の予防的抗菌薬投与に関する検討

- ⑥非治癒因子を有する胃癌に対する導入化学療法+手術の予後に及ぼす効果についての検討

- ⑦食道胃接合部癌に対する至適術式の検討

- ⑧ cStage Ⅱ、Ⅲ胸部食道癌における術後再発を予測する臨床病理学的因子の検討

- ⑨ Stage Ⅲの切除不能胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1+Docetaxel併用療法とTS-1単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験 JACCRO GC-07 (START-2)

- ⑩胃癌術前手術難易度の予測としての腹腔内脂肪量測定の意義と簡便法の開発

- ⑪ HER2発現別の2次化学療法の治療効果の検討。

- ⑫ Flotrac を用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除における人工気胸法の安全性の評価。

- ⑬ Stage Ⅲの切除不能胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1+Docetaxel併用療法とTS-1単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験

- ⑭胃癌におけるFGFRの異常に関する解析研究 (FGFR-GC study) —多施設共同研究

- ⑮幽門狭窄を有した進行胃癌の術前栄養状態と術後合併症の関連性

- ⑯胃癌におけるミスマッチ修復機構破綻に基づく癌免疫チェックポイント阻害剤有効性に関する新規バイオマーカーの探索

- ⑰ H. Pylori 陰性胃癌および食道胃接合

部癌におけるエピゲノム異常と発癌との関連性

- ⑮循環腫瘍細胞の解析による血液モニタリングシステムの臨床応用－切除不能胃癌に対する HER2阻害薬の適応拡大へ－

下部消化管外科（大腸・肛門）

下記を含む JCOG 臨床試験（6 試験）に参加中である。

- ① JCOG1805「再発リスク因子を有する Stage II 大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験」
- ② JCOG1915「再発低リスク大腸癌に対するレスインテンシブサーベイランスの単群検証的試験」
- ③ JCOG2010「下部直腸癌に対する total neoadjuvant therapy (TNT) および watch and wait strategy の第Ⅱ / Ⅲ相単群検証的試験」
- ④ JCOG2207「臨床病期Ⅲの下部直腸癌に対する total neoadjuvant therapy (TNT) および選択的側方リンパ節郭清の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験」

下記を含む多施設共同研究（6 試験）に参加中である。

- ①腹腔鏡下大腸切除研究会プロジェクト研究「内視鏡外科手術動画等を用いた多施設データベースの構築及び利活用」
- ②腹腔鏡下大腸切除研究会プロジェクト研究「潰瘍性大腸炎における腹腔鏡手術と開腹手術の臨床成績の検討」

肝胆膵外科

- ①肝門部胆管癌に対する術式および術前術後管理の工夫
- ②膵癌の Liquid biopsy の研究
- ③肝胆膵切除術後 Surgical Site Infection 低減への取り組み
- ④膵切除術の手術手技の工夫と治療成績向上への取り組み
- ⑤高齢者の膵頭十二指腸切除の手術適応と高リスク症例の抽出の試み
- ⑥膵癌および胆道癌に対する集学的治療成績の検討

多施設共同臨床研究

- ①肝細胞癌切除後ミラノ基準内再発に対する再切除術の有用性
- ②膵全摘患者に対する前向き実態調査
- ③切除可能な少数転移巣を伴う膵癌に対する外科的切除の有用性に関する検討
- ④門脈接触を伴う膵体尾部癌に対する至適 resectability 分類の検討
- ⑤膵切除における抗血栓薬服用歴が術後経過に及ぼす影響に関する研究
- ⑥肝細胞癌切除後ミラノ基準内再発に対する再切除術の有用性肝細胞癌切除後
- ⑦ミラノ基準内再発に対する再切除術の有用性

乳腺・内分泌外科

- ① FDG - PET/CT と乳癌組織、甲状腺腫瘍の病理学的特性との比較検討
- ②造影超音波検査およびエラストグラフィによるセンチネルリンパ節、乳腺、甲状腺腫瘍の画像診断の検討
- ③埼玉乳癌臨床研究グループ (SBCCSG) での共同研究
- ④化学療法の副作用対策としての漢方薬

の検討

- ⑤乳癌化学療法における末梢神経障害と浮腫に対する弾性グローブ、スリーブ、ストッキングの有用性
- ⑥乳腺甲状腺そして副甲状腺における細胞診の有用性

小児外科

- ①胆道閉鎖症全国登録事業－胆道閉鎖症の年次登録と予後追跡調査による疫学研究－
- ②胆道閉鎖症におけるビタミンK製剤投与法がビタミンK欠乏性出血症に与える影響に関する疫学研究
- ③術前データによる胆道閉鎖症手術成功率の層別化と一次肝移植適応基準作成のための多施設共同後方視的調査研究
- ④小児期、とくに新生児期における臍部ストーマ造設術症例の後方視的調査研究
- ⑤小児外科外来における漢方薬の使用状況についての後方視的調査

い外科治療を行っていききたい。化学療法分野では、がんゲノム医療の技術・知見を積極的に活用し、患者ごと腫瘍ごとの遺伝子変異や臨床的特徴に沿った薬物療法の提供を目指している。また、教育機関として若手外科医のトレーニングについても積極的に関わり、治療手技と責任感の向上を図っている。

6. 業績（論文・学会・講演）

英文論文：18編（前年度17編）
邦文論文：5編（前年度7編）
国際学会発表：3件（前年度0件）
国内学会発表：67件（前年度58件）
講演：10件（前年度10件）
著書：1編（前年度1編）

7. 目標の達成度、来年の目標

術後合併症ゼロを目標に、安全な手術・周術期管理を心がけてきた。手術支援ロボットを用いた低侵襲手術の導入・適応拡大など、今後も患者満足度が高く、質の高